



# 大久保小だより



平成30年7月1日第4号

さいたま市立大久保小学校

さいたま市桜区五関21

048(854)7636

男子147名女子122名計269名

学校教育目標 **カいっぱい かしく やさしく たくましく**  
～ふるさとを愛し、志高く生きる、心優しい大久保の子ども～

## あきらめず、やり続ける

### 校長 金子 要一

先月12日、6年2組は桜区のバスケットボール大会に出場し、第3位に輝きました。第一試合は負けてしまったものの、第二試合は1ゴール差まで迫られましたが、あきらめず勝利しました。運動が得意な人、不得意な人それぞれありますが、全員が自分の持てる力を出し切りました。そして、それ以上に、仲間への応援や試合後の対戦相手・保護者のみなさんへのあいさつなど、スポーツマンとしてのマナーもとても素晴らしいものでした。堂々と胸を張ってほしいものです。お疲れ様でした。

さて、アメリカ大リーグのイチロー選手は3歳の時からキャッチボールを始め、保育園のころには「大きくなったらプロ野球選手になる」と言っていたそうです。小学校の卒業文集には、中学、高校で全国大会に出場し、高校を卒業して、中日か西武のプロ球団に契約金一億円以上で入る、と自分の将来の姿を明確に描いていたそうです。

しかし、イチロー選手は、ただ夢を見ていただけではありません。手首や指の力を強くするために、中に鉛(なまり)の入ったボールを常に握るようになりました。また、先ほどの文集には「3年生の時から今まで、365日中、360日は激しい練習をやっています。だから、1週間中、友達と遊べる時間は、5～6時間の間です」とも書いています。イチロー選手は“天才”と言われますが、実は努力し続けた“努力の人”なのです。

また、小学生の頃から道具を大事に扱い、大リーガーになってからも試合を終えロッカールームに戻ると、すぐさまスパイクを磨き、グローブの手入れをしたそうです。そして、調子が良い時も悪い時も、日頃の日課をこなし、道具の手入れをしたそうです。小さい頃からの習慣を夢が実現してからもやり続け「小さいことを積み重ねることで、いつの日か信じられないような力を出せるようになっていく」と語り「結果が出ないとき、どういう自分でいられるか。決してあきらめない姿勢が、何かを生み出すきっかけを作る」とも書いています。

また、今年の冬に行われた平昌冬季パラリンピックの女子チェアスキーに出場した、埼玉県深谷市出身の村岡桃佳さんも、小学生の頃の文集に「パラリンピックに出場する」と書きました。そして、夢を実現させただけでなく、5個のメダルまで手にしました。

村岡さんは4歳の時、突然歩けなくなり、車いすの生活になりました。小さな女の子が夢や目標をもつ前に、障害を受け入れなければなりません。そして、陸上競技などに挑戦した後、小学校の低学年でチェアスキーに出会いました。「車いすでは感じられない風を感じたい」と雪山を猛スピードで滑り降りるチェアスキーを本格的に始めました。

高校3年生で初めて出場した、ソチパラリンピックでは緊張のあまり実力を発揮できず失格になりました。悔しさでいっぱいだったそうです。「次こそは、私も表彰台に立ちたい。チェアスキーは自分との闘いだからこそ、滑り切ったときの達成感がすごい。だから、どんなに寒くても、怖くても挑戦し続けたい」と思ったそうです。何度もつらい思いをしながらあきらめずにやり続け、夢を実現させたのです。

いよいよ21日から夏休みです。勉強でも、スポーツでも、おうちのお手伝いでもいいです。「毎日宿題以外に漢字書取りや計算練習など、30～60分は勉強する」「素振りを100回やる」「お風呂掃除をする」など、毎日取組めることをおうちの方と話し合っ